

小梅「パープルクイーン」の着色向上実証試験

1 ねらい

JA 紀南のオリジナル品種である「パープルクイーン」は、陽光面の果皮が紫色に着色し、梅ジュースや梅酒を作るときれいなピンク色になる特徴がある。

そこで、樹冠下にマルチを設置し果実の下部面に反射光を当てることで、紫着色を向上させ果実の高品質化を図った。

2 普及活動の経過及び成果

1) 試験内容

場所：田辺市中三栖（平坦園 面積 10 a）

供試品種：パープルクイーン 8年生

マルチ資材：果樹用シルバーマルチ（銀色、巾 1.8m、50m 巻き）
タイベック（白色、巾 1.8m、100m 巻き）

マルチ設置日：5月18日

設置方法：マルチ資材を株元から左右に 50cm 離して設置

果実調査日：5月28日

2) 結果および考察

マルチ設置による紫着色開始時期は、シルバーマルチが3日後、タイベックが5日後、無処理が7日後でシルバーマルチが最も早かった。

しかし、設置10日後にはシルバーマルチ、タイベックとも果実のほぼ全面が着色し、効果は同等となった。

マルチ被覆による収益試算は、シルバーマルチ、タイベックとも無処理区に比べ 18,000 円/10a 増加した。コストの回収期間は、タイベックが 2.8 年でシルバーマルチ（5.5 年）より早かった。

以上の結果から、パープルクイーンの色着色向上にはタイベックマルチが良いと考えられた。さらに、パープルクイーンの出荷着色基準（5分着色以上）を上げて（例えば7分以上）付加価値を高めればマルチによる収益増加効果がますます高まると予想される。



写真1 マルチ設置状況



写真2 果実着色状況(シルバーマルチ)



写真3 着色程度調査(タイベック)

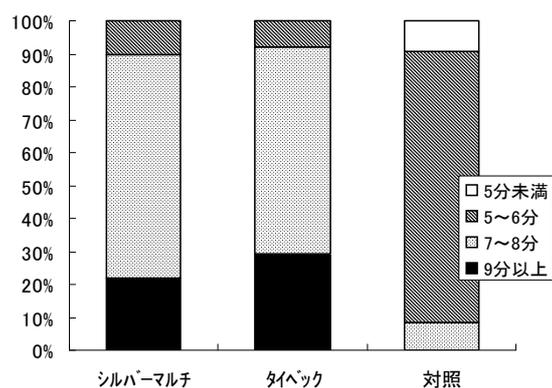


図1 地上150cm位置の果実着色程度

マルチ被覆による収益増加効果試算表

		単価	タイベック区	シルバーマルチ区	無処理区
着色程度	7分着色以上	850円	90%	90%	9%
	5分~6分	850円	10%	10%	81%
	5分未満)	670円	0%	0%	10%
収量 (10a)			1000kg	1000kg	1000kg
粗収益 (10a)			850,000円	850,000円	832,000円
マルチによる収益アップ額 (10a)			18,000円	18,000円	
マルチ資材 (10a) (被覆率50%)			1.8m × 100m @17,000円 3本	1.8m × 50m @16,500円 6本	
資材費 (10a)			51,000円	99,000円	
コスト回収期間			2.8年	5.5年	
耐用年数 (推定)			10年	10年	

粗収益はH24のパープルクイーンの販売単価に収量(成園)を乗じて計算
耐用年数はマルチの設置期間が20日として推定